



## Kernel通信

神戸大学附属図書館電子図書館担当

---

(Issue Date)

2021-08-04

(Resource Type)

other

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100475650>





## 研究者紹介 櫻井徹先生

この通信では、**Kernel** で論文を公開されている研究者をご紹介します。今回は 2021 年 4 月に附属図書館長に就任された櫻井徹先生（国際文化学研究科）です。

櫻井先生のご専門は法哲学。「法律×哲学」と聞くとなにやら難しそうですが、法律学の基礎的な部分をカバーする基礎法学の一部とのこと。その中でも特に「私的所有」「国境線」など、私たちがふだん当然のものとなししているさまざまな制度の根拠を問い直すのが先生のご研究です。研究テーマは、


- 「私有財産の自由な行使によって生まれる環境問題をどう解決すればいいのか」
- 「遺伝子操作はどこまで正当なのか、なぜ正当だと言えるのか」

といった内容にまで広がり、近年は「グローバル・ジャスティス」に関心を抱かれているとのこと。移民問題やワクチン配分など

で国際的な不平等を生じさせているひずみとはいったい何なのか。その根幹を探るお話をうかがうと、法哲学が社会的に担う役割についても考えさせられます。



続いてコロナ禍に対応したオンライン授業のメリット・デメリット、研究スタイルの変化についてうかがい、最後にこの 4 月からの館長ご就任を踏まえて目指したい図書館像を語っていただきました。ぜひ、以下のページよりインタビュー全文をご覧ください。

 インタビュー全文

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kernel/interview20210607.pdf>

 **Kernel** で公開されている櫻井先生の論文

<http://www.lib.kobe->

[u.ac.jp/infolib/meta\\_pub/CsvSearch.cgi?DEF\\_XSL=default&SUM\\_KIND=CsvSummary&SUM\\_NUMBER=20&META\\_KIND=NOFRAME&IS\\_KIND=CsvInitSearch&IS\\_SCH=CSV&IS\\_STYLE=default&IS\\_TYPE=csv&DB\\_ID=G0000003kernel&GRP\\_ID=G0000003&IS\\_START=1&IS\\_EXTSCH=&IS\\_NUMBER=20&IS\\_TAG\\_S1=Record&IS\\_KEY\\_S1=A1106](http://www.lib.kobe-u.ac.jp/infolib/meta_pub/CsvSearch.cgi?DEF_XSL=default&SUM_KIND=CsvSummary&SUM_NUMBER=20&META_KIND=NOFRAME&IS_KIND=CsvInitSearch&IS_SCH=CSV&IS_STYLE=default&IS_TYPE=csv&DB_ID=G0000003kernel&GRP_ID=G0000003&IS_START=1&IS_EXTSCH=&IS_NUMBER=20&IS_TAG_S1=Record&IS_KEY_S1=A1106)

## 特集：

本号では、オープンアクセス推進ワーキンググループメンバーの職員が、ORCID と researchmap についてご紹介します。

### はじめに：特集の概要

- 本特集では、ORCID と researchmap の背景・機能をまとめました。
- 研究者情報基盤に関わる各システム間の連携・登録情報の利活用によって研究者の負担軽減が進められています。
- その試みの一つが研究者識別子であり、ORCID は事実上世界標準の研究者識別子です。
- また、国内の研究者総覧データベースである researchmap のデータは科研費の業績審査時に使用されるなど、利活用が進んでいます。
- ORCID から researchmap へデータを取り込むことができます。
- KUID（神戸大学情報データベース）は researchmap のデータを取り込んでいます。したがって、本学では業績登録を researchmap で行う必要があります。



### ORCID の背景：研究者識別子とその統合

ORCID (Open Researcher and Contributor Identifier) は研究者識別子の一つであり、世界中の研究者に対して一意で永続的な識別子を付与するものです。従来、書誌情報における著者名は、表記の揺れ、旧姓、同姓同名等の曖昧性を含むため、研究者を一意に特定することに障害が生じていました。現在、こういった曖昧性を軽減し、一意性を担保するため、著者に対して識別子を用いることの重要性が認識されています[1]。

また、研究者に付与される識別子としては、Web of Science ID や Scopus Author ID などありますが、こうした研究者識別子についてのイニシアティブが複数存在する中で、それらの間の互換性がないこと、そして、これらを統一すべきか、統一すべきであるならば、どのような機関がいかに統一すべきか、という問題が指摘されていました[2]。

こうした問題を受け、2010年に、そうした複数のイニシアティブに対して中立的なサービスの提供を目的とした国際非営利団体 ORCID Inc.が発足しました。ORCID Inc.の発足により、研究者は一意で永続的な識別子 (ORCID iD) と、それに付随する様々な機能を無料で利用できるようになりました。

### ORCID の機能(1) : レジストリとレコード

ORCID は研究者識別子を付与する他に、研究業績や職歴を登録・公開するサービスを提供しています。また、研究者情報基盤として、後述の researchmap をはじめとする研究者総覧データベースや、大学等の研究機関の研究者情報システムとの連携機能も有しています。

こうした ORCID の機能を利用するためには、まず、レジストリに登録する必要があります。ORCID レジストリへは、学術研究に携わる者であれば誰でも無料で登録可能です。登録すると、一意の 16 桁の ORCID iD が発行され、自身の経歴や業績などを入力できる ORCID レコードへのログインが可能となります。

### ORCID の機能(2) : 公開レベル設定

新規登録時、ユーザーは自身の ORCID レコードについて「公開 (Everyone)」、「限定公開 (Trusted Parties)」、「非公開 (Only me)」の三つの公開レベルのいずれかを選択することができます。その内、「限定公開」とは、一般には非公開とする一方で、ユーザーが信頼する ORCID 登録者・機関に対してアクセスを許可するというものです。新規登録後も、個別のアイテム毎に公開レベルを設定することが可能で、ユーザー自身が管理を行います[3]。

### ORCID の機能(3) : ORCID レコードの管理・更新

ORCID レコードの管理と更新については、(1) Web ブラウザから登録者本人または代理人が入力・編集する方法、(2) ORCID Inc. が提供する API サービスを利用する方法の二つがあります。(2) の API にも種類があり、その内、公開 API では「公開」情報のみの読み取りや検索が可能であるのに対し、ORCID 機関メンバーのみが利用できるメンバー API では「限定公開」情報へのアクセスや、ORCID レコードの情報の書き込みが可能となります。

また、自己申告制の研究者情報システムでは、情報の信頼性をいかに担保するかが課題です。その点、ORCID は、登録者の許可を得た ORCID 機関メンバーによる情報の書き込みにより、その情報の出所が明記される仕組みとなっています。

### ORCID の機能(4) : DOI 機関による自動アップデート機能

2020 年、国内唯一の DOI 登録機関である JaLC (Japan Link Center) によって自動アップデート機能が実装されました[4]。これは、JaLC コンテンツ検索画面から ORCID にログインし、「ORCID に業績を自動的に連携します」を「ON」にすると、ORCID iD が含まれる JaLC コンテンツが、自動的に ORCID の業績情報に登録されるというものです。

### researchmap の背景 : システムの目的と統合

researchmap は JST (科学技術振興機構) が運用・提供している研究者総覧データベースです。次の二つのシステムが統合されることにより発足しました。

一つは、JST が開発・運用し、1998 年に提供を開始した ReaD (研究開発支援総合ディレクトリ : Directory Database of Research and Development Activities) です。ReaD は、基礎研究の成果を産業へ活用するために研究者情報の蓄積・公開を行っていました。もう一つは、国立情報学研究所によって開発され、2009 年から提供を開始した「Researchmap」です。研究者自身がその成果の管理・公開を行い、研究者間のコミュニケーションを行うことで、Web 上での研究活動の促進を目指していたサービスです。

2011 年に、これらサービスが統合され、「ReaD&Researchmap」として現在の形でサービスの提供が開始されました[5]。そして 2014 年、現行の「researchmap」へ名称が変更されました。

#### researchmap の機能(1) : 研究情報の登録・管理とその負担軽減

researchmap に登録すると、「マイポータル」という個人用の Web ページが利用可能になります。このマイポータルで、所属・経歴・研究分野等の個人プロフィールや、論文・書籍・特許等の研究実績、社会貢献活動やメディア報道等の研究発信活動といった、研究に関する様々な情報を入力・管理することができます。

また、研究情報、特に業績情報の登録・管理は、研究者にとって大きな負担となりますが、researchmap では簡単に業績情報を登録できる機能が備えられています。例えば、researchmap は Web of Science・Scopus・PubMed・CiNii といった外部の学術データベースと連携されており、氏名やキーワードの検索によって、業績情報を取り込み、登録することが可能となっています。researchmap 経由であれば、連携している有償の学術データベース——本学で利用契約していない Scopus を含む——からも業績情報を取得することができます[6]。

なお、所属研究機関のデータベースだけで業績情報の管理を行っていた場合、他機関への異動時に業績情報を別のデータベースへ再登録しなければなりません。researchmap で管理していた場合は、「所属」・「経歴」情報を更新するだけで、同じ情報を利用し続けることが可能です。

#### researchmap の機能(2) : 登録内容の利活用

researchmap に登録された情報は、他のシステムでも利用可能となっています。例えば、e-Rad（競争的資金制度を中心とした公募型の研究資金制度の手続きを管理する、府省共通研究開発管理システム）との間で連携が行われるようになりました。これは、内閣府によって定められた「競争的資金における使用ルール等の統一について（平成 29 年 4 月 20 日改正）」を受けたものです。このことにより、e-Rad 上で応募する際、成果報告時に入力する業績情報として、researchmap の登録情報の取り込みが可能になり、報告時の負担が軽減されました。

また、科学研究費助成事業においても、2018 年度から業績審査時に researchmap の登録情報を参照できるようになり、応募時の負担が軽減されました。さらに、JST が運用している競争的研究費制度の公募要領において researchmap の登録が推奨されている他、戦略的総合研究推進事業（CREST・さきがけ・ACT-X）及び創発的研究支援事業では、採択研究者の researchmap への登録が必須となっています。

#### researchmap の機能(3) : 機関データベースとの連携

researchmap は、大学の研究者情報システム等、研究機関のシステムとの連携においても活用されています。

本学でも、researchmap は KUID（神戸大学情報データベース）と連携しており、researchmap に登録された業績情報が、KUID へ取り込まれる運用になっています。したがって現在は、業績登録を researchmap 上で行うよう指示されています[7]。

このような連携を行うことにより、研究者はシステム毎に情報の登録・更新を行う必要がなくなり、研究機関もシステム毎に登録情報を確認する労力が省かれ、双方の負担を軽減できます。

#### researchmap の機能(4) : ORCID との連携

researchmap と ORCID を連携すると、ORCID に登録した研究業績を researchmap へインポートすることができます。

前述の通り、researchmap のデータは KUID に取り込まれますので、この機能を使えば、ORCID、researchmap、KUID で、同じ研究業績を簡単に共有できます。

## researchmap の機能(5) : 最近のアップデート内容

2020 年度に researchmap.V2 がリリースされ、新しい機能が実装されました。ここではその内のいくつかを取り上げます。

まず、業績情報の自動登録機能が拡張されました。従来の、所属機関の事務担当者による更新機能に加え、代理編集が可能となる「代理人機能」が実装されました。この機能によって、研究室の事務員や研究補助員へ、業績管理権限を委譲できるようになります。また、共同研究を頻繁に行っている他の研究者を登録することで、執筆論文が自動登録される「共著者登録機能」も実装されました。

その他、各研究機関の広報の際に作成・掲載されているプレスリリース記事を、researchmap 上にも掲載できる「プレスリリース機能」が実装されました。この機能により、プレスリリース記事に関連する研究者が researchmap に登録されている場合、その研究者のマイポータルへのリンクの生成が可能となります。

## まとめ

以上が ORCID と researchmap の概要です。研究業績の登録や管理は負担になりがちです。しかし、ORCID や researchmap には、それらを支援する様々な機能が用意されています。ぜひ、ORCID と researchmap を共に登録・連携して、事務負担を軽減しつつ、研究業績の発見可能性を高めてください。

## 参考文献

1. Enserink, M. "Are You Ready to Become a Number?", Science, vol.323, no.5922, p.1662-1664.  
(<https://doi.org/10.1126/science.323.5922.1662>)
2. 前掲注[1]
3. ORCID Privacy Policy (<https://info.orcid.org/privacy-policy/>)
4. JaLC コンテンツ検索での ORCID 連携操作マニュアル (<https://japanlinkcenter.org/app/static/help/html/help.html>)
5. Researchmap と ReaD の統合について  
([https://researchmap.jp/bbses/bbs\\_articles/view/381919/c97465ae3b8aa0f095fb7306156ed475?frame\\_id=564778](https://researchmap.jp/bbses/bbs_articles/view/381919/c97465ae3b8aa0f095fb7306156ed475?frame_id=564778))
6. 粕谷直「研究者総覧データベース researchmap のこれまでとこれから」『情報の科学と技術』71 巻 5 号, p.216  
([https://doi.org/10.18919/jkg.71.5\\_214](https://doi.org/10.18919/jkg.71.5_214))
7. 神戸大学情報データベースシステム ([https://www.istc.kobe-u.ac.jp/glossary/Kobe\\_University\\_Information\\_Database\\_System/](https://www.istc.kobe-u.ac.jp/glossary/Kobe_University_Information_Database_System/))

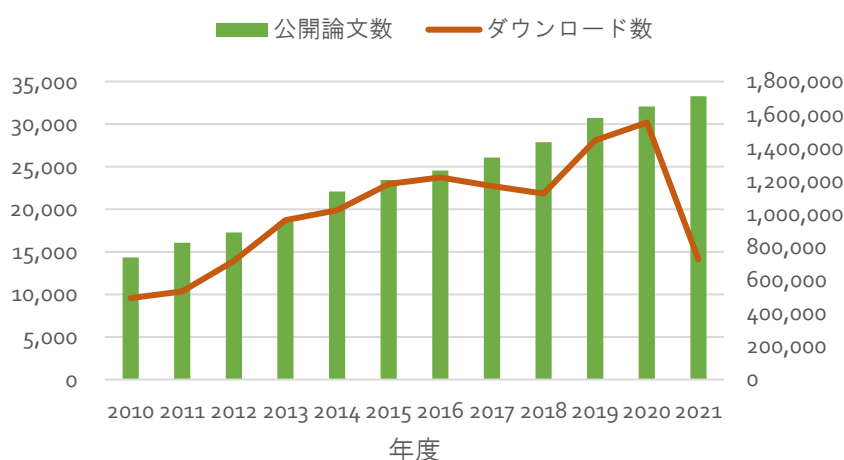
## Kernel ニュース

セルフラーニング資料「博士論文のインターネット公表について」を公開しました。学位規則改正（2013年4月1日施行）以降、博士論文のインターネット公表が義務化されましたが、論文の公開にあたっては注意すべき点がいくつかあります。博士論文の執筆前・提出前にぜひこちらの資料をご覧ください。

<https://lib.kobe-u.ac.jp/kulip/top/manual/#openaccess>



## Kernel 統計（公開論文数とダウンロード数の推移）



今年度に関しては6月末時点のデータですが、公開論文数・ダウンロード数ともに順調に増加しています。特に4月は昨年度と比べて倍以上のダウンロード数を記録しており、今年度はより多くの方に見ていただけるのではないかと期待しています。これからも研究成果が広く読まれるよう、公開に努めてまいります。**Kernel**へのご登録、お待ちしております。

Kernel 通信 第25号 2021年8月4日 発行

神戸大学附属図書館 電子図書館担当

特集 石黒・大場・佐桑（オープンアクセス推進WG）

インタビュー協力 佐藤・山本（アウトリーチWG）・谷口（オープンアクセス推進WG）

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町2-1 社会科学系図書館3階

Email : [repo@lib.kobe-u.ac.jp](mailto:repo@lib.kobe-u.ac.jp) Tel : 078-803-7333 Fax : 078-803-7336